

令和7年度

品質・生産性向上のための課題解決支援研修

受講者募集

座学と実践を通して
企業の中核人材
を育成します。

募集定員 16名 (先着)

ねらい

- ものづくり企業の生産性を向上させるため、企業の中核人材の育成に必要な「品質・生産性向上のための課題解決」を率先して実践できる管理・監督者の育成を図ります。
- 全カリキュラムを有機的に結び付け、現場の監督者にふさわしい知識・技能・態度を身に付けます。

特徴

- 生産現場において、品質・生産性向上のための課題解決方法や人材育成方法などを習得できる延べ18日間の総合研修です。
- 受講者の所属企業の製造現場を教室とした実践的な内容です。
※**貴社の製造現場での実践研修**にご協力ください。



特徴

1. より品質・生産性の高い技術・技能にブラッシュアップする為には、『暗黙知』を『形式知』にすることが重要です。
※暗黙知：個人の経験や勘に基づく知識 ※形式知：文章や図表、数式で説明できる知識
このプロセスを、座学と実践を通して、“行動できる”まで修得するように進めます。
2. 受講者の“気づき”を大切に、職場の問題・課題に自ら積極的に取組む現場リーダーを育成します。
3. 県内企業での指導実績豊富な講師が、受講者に寄り添った活動支援を実施します。
また、講座終了後のフォロー支援も可能です。

概要

1. 既存の価値観や枠組みを根底から覆すリーダーの育成（4日間）
 - ・変革の行動を起こすための「思い込み」と「他責」からの脱却
 - ・「歩行ラリー」という屋外研修を通して、3現で事実をみる、チームワークの大切さを体得するとともに、リーダーシップ発揮のポイントを修得する。
 2. 「職場の変革」（仕事の流れを変える）に必要な手法の習得（5日間）
 - ・『暗黙知』を『形式知』化し、品質・生産性を向上させる改善プロセスに必要な考え方・手法を演習を交えて学ぶ。
(TQM、TPM、TPSの各種手法、作業の標準化と作業要領書への落とし込み)
 3. 異業種企業での「職場・企業の変革」の実践（7日間）
 - ・テーマ選定、現状把握、現状分析（問題点の顕在化）、改善策の検討、活動のまとめ
 4. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上（2日間）
 - ・これまで学んだことを応用して技術・技能伝承の自社での対応、DX推進への対応を学ぶ。
 - ・最後に、活動の成果発表と今後の活動計画、決意表明を実施する。
- ◆開催日：令和7年8月5日～令和8年2月27日（18日間）



対象

- ・将来の管理者を目指す方
- ・現場の管理・監督者として活躍を期待されている方
- ・製造現場の管理・監督者に求められる能力を総合的に習得する必要のある方、又はその候補者で在籍企業から推薦のある方

<運営団体 一般社団法人富山県経営者協会>

開催日・研修カリキュラム（概要）

回数	日程	カリキュラム	主な内容
第1ステージ (意識改革)	1	8/5 (火)	入校式 自己紹介 概論
	2	8/26 (火)	「気づきの力」 の醸成
	3	9/16 (火)	3現実践力 の養成
	4	9/17 (水)	
第2ステージ (仕事の流れ改革)	5	10/7 (火)	QC的な考え方と 問題解決の進め方
	6	10/14 (火)	ゲーム感覚で学ぶ IE・PM・未然防止 の手法
	7	10/28 (火)	
	8	11/11(火)	
	9	11/25 (火)	
第3ステージ (進め方改革)	10	12/9 (火)	現場実習①
	11	12/16 (火)	現場実習②
	12	12/17 (水)	
	13	1/13 (火)	現場実習③
	14	1/14 (水)	
	15	2/3(火)	現場実習④
	16	2/4(水)	
第4ステージ (コミュニケーション能力向上)	17	2/17 (火)	成果発表①
	18	2/27 (金)	成果発表② 修了式

合宿予定

合宿予定

※受講生の理解度によって、カリキュラムを変更する場合があります。
現場実習の時間につきまして、受入企業様の事情により変更する場合があります。

研修カリキュラム（イメージ図）

本研修のねらい

品質・生産性の向上⇒「**良いモノ・人の流れ**」をつくる

⇒「**良いモノ・人の流れ**」づくりを率先して
実践できる人財の育成

【実践に必要な力】

- 第1ステージ ①「モノ・人の流れ」を従来の考え方に**捕らわれず見る力**
- 第2ステージ ②「モノ・人の流れ」の全体像を**俯瞰する力**
- 第3ステージ ③「モノ・人の流れ」を**感じとる力**
- 第4ステージ ④「モノ・人の流れ」の改善を**実践できる力**
- ⑤「モノ・人の流れ」の改善プロセスを**標準化につなげる力**
- ⑥「モノ・人の流れ」の改善プロセスを**プレゼンできる力**



4つの視点

「**良いモノ・人の流れ**」を阻害する要因は
「**設備**」と「**人の作業動作**」の中に隠れている！

4つの目でみよう！

「鳥の目」「魚の目」「コウモリの目」「虫の目」



- 「虫の目」…詳細な部分を見る目 細かく見る目、現場の視点
- 「鳥の目」…全体を俯瞰する目 マネジメントの視点
- 「魚の目」…流れを感じとる目 流れを阻害する要因の排除
- 「コウモリの目」…別の側面を見る目 物事を反対から見たり、従来の見方に捉われず、固定概念を取り払ってみる。常識を疑う

講 師

◆主任講師 棚邊 一雄（M&P研究所 代表）

1970 年アイシン精機(株)に入社後、1972 年アイシン軽金属(株)に転籍し、生産技術部門、TQC部門に従事。ダイカスト工場長、常務取締役、専務取締役を歴任後、グループ会社の社長に就任。退任後は、M&P研究所を設立し、中小企業の改善、ものづくり支援に関する指導・コンサルティングに従事。東京大学ものづくりインストラクター（R）としても活動中。

◆主任講師 竹村 稔（M&P研究所とやま 所長）

1977 年アイシン軽金属(株)入社。TQC・PM推進部門に従事した後、機械加工工場長、生産管理部長、米国法人会社アイシン・ライト・メタルズ社長などを歴任。退社後は、M&P研究所とやまを設立し、「品質管理」「生産現場の問題解決」など公開講座の講師や、中小企業の管理改善・人材育成にむけた取り組みの支援を行っている。

◆外部講師 熊原 徹司（ヒューマンズコンサルティング(株) 代表取締役）※ 屋外研修「歩行ラリー」担当

(株)資生堂、SMBCコンサルティング(株)を経てヒューマンズコンサルティング(株)を設立。中小企業診断士。人事制度策定、教育体系構築及び企画、各種人事マニュアル作成から研修プログラムの開発実施に努めている。2009 年から組織活性化研修として有名な「歩行ラリー」の教育内容、進め方等を研究し、コース設計会場は 15 カ所を越え、その経験数は日本トップレベルである。現場の管理者を対象とした3現実践能力の向上をねらいに活躍している。

◆外部講師 高木 美作恵々 リエイティブ マインド 代表）※「QC的な考え方と問題解決の進め方」担当

1974 年シャープ(株)入社後、海外事業本部から品質保証部門へ異動。以降、品質管理、品質保証、顧客満足(CS)戦略、人材育成、標準化など、品質に関する幅広い業務を歴任。特にグローバル品質戦略室では、部長として国内外の品質戦略、人材育成、ISO事務局などを統括。2014 年にシャープを退職後、個人事務所クリエイティブ マインドを設立。現在は日本科学技術連盟嘱託、日本規格協会講師として活躍している。

◆現場実習講師

品質管理部門、製造部門の責任者として第一線で活躍している経験豊富な県内企業の経営者・管理者

【過去の研修状況】



FAX送信
076-444-4405

以下の欄に漏れなく記入してください。また、☐欄にはチェック☒を記してください。

会 社 名							
住 所		〒 —					
代表者 (職・氏名)							
ご 連 絡 先	部 課		担 当 者 名				
	T E L		F A X				
	メール アドレス	_____@_____					
受 講 者	(ふりがな)		年 齢	才	性別	☐ 男性	
	氏 名					☐ 女性	
			生 年 月 日	☐ 昭和	年	月	日
			☐ 平成				
	所属部課・役職		勤 務 年 数	年 か月			
	担当業務						
生産現場での 製造品目							
確 認 事 項	実習会場の 提供の可否	工場などの製造現場を「第3ステージ」の実習会場として提供することが ☐ できる ☐ できない ☐ 条件など（ ）					
	事前面談の実施	令和7年8月1日（金）主任講師との個別面談があります。時間は別途連絡します。					
	応募条件	・P Cの基本操作及びOfficeソフト（ワード・エクセル・パワーポイント）の基本操作ができること。 ・研修期間（18日間）のうち8割（14.5日間）以上出席できること。					



TEL: 076-444-3260

